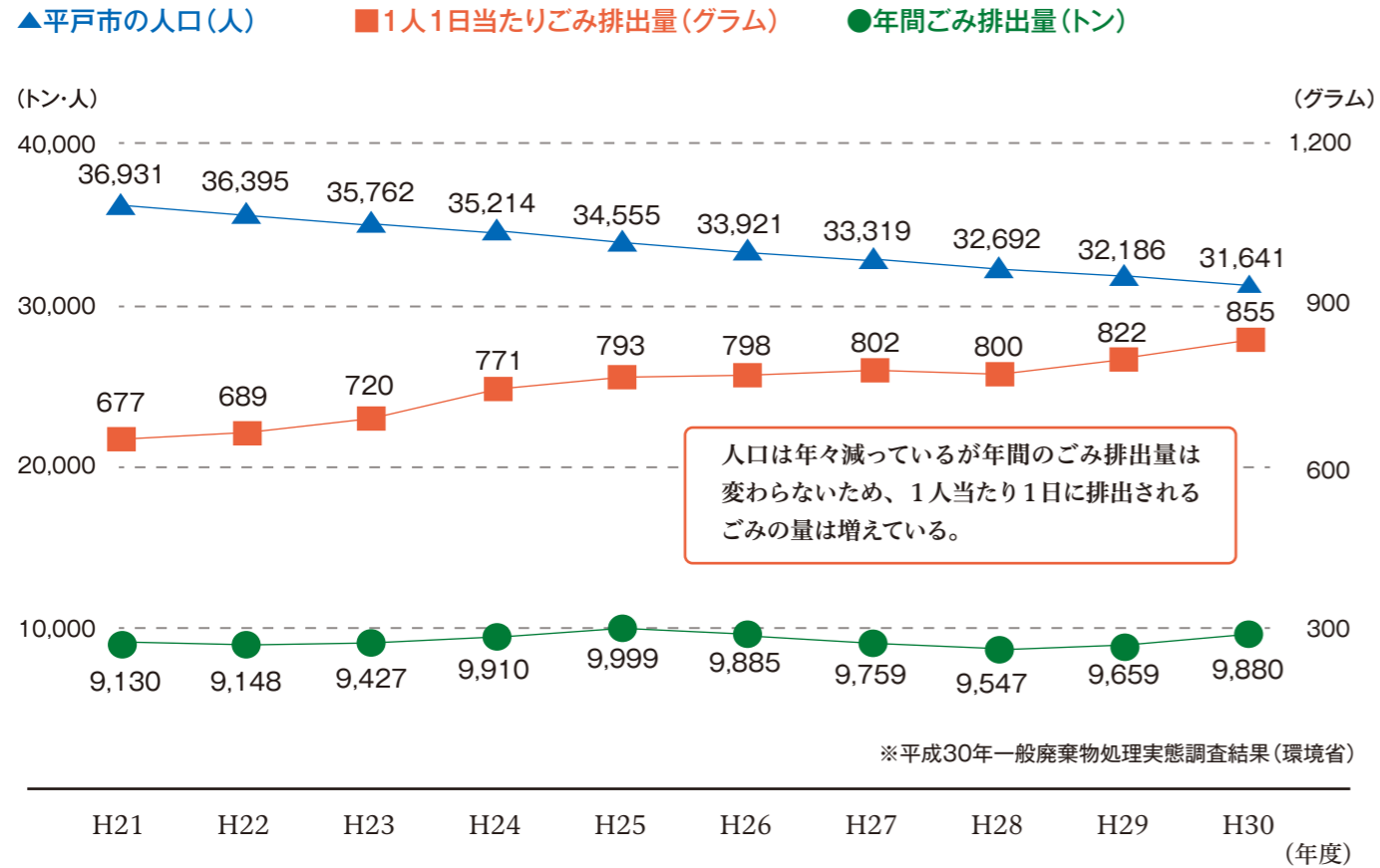


## 平戸市の人口推移／1人1日当たりのごみ排出量／年間ごみ排出量



### 汚泥堆肥「環境一番」



北松北部クリーンセンターで処理している、生ごみ・し尿・浄化槽汚泥についても、一部再資源化され、汚泥堆肥「環境一番」として販売されています。

分別の徹底で費用削減

現在ごみ処理については、北松北部クリーンセンターでし尿汚泥とともに処理しています。その運営経費は年間約13億円必要であり、そのうち平戸市は約7億円を負担しています。1世帯あたりに直すと約5万円の負担となります。

これを減らすためには、古紙など身近なものの分別を普段から徹底し、再資源化することが重要です。可燃系ごみと資源系ごみの分別を徹底することで、北松北部クリーンセンターでの処理(焼却)費用が削減されます。また資源系ごみは、そのほとんどが再資源化され、一部が収益となりクリーンセンターの運営経費などに充てられます。

### 分別の徹底で費用削減

分ければ **資源** 混ぜれば **ごみ**

ごみを減らすために、私たちができる取り組み

### 1人1日当たりのごみ排出量増加の要因

- ①活発な生産・消費活動によるごみ総量の増加
- ②再資源化および分別意識の低下
- ③産業廃棄物の混入によるごみの増加
- ④海岸漂着ごみ、家屋解体廃棄物、家屋整理ごみの増加

また、平戸市からクリーンセンターに持ち込まれる可燃ごみ約8千トンの中には、再資源化できる古紙類、古布類が約4千トン近く含まれると推定され、仮にそのうちの10%が再資源化されたとすると、単純計算で16,000円×400t=640万円の更なる費用削減が見込まれます。

ごみを出す市民がごみ減量に関心を持ち、ほんの少し工夫することでごみ減量や経費削減、ひいては環境保全にもつながります。

### 全国的に問題となっているごみの増加

2018年度の全国のごみ総排出量は、4,272万トンで東京ドーム約115杯分もの量を廃棄することになります。しかもこの数字は、一般廃棄物の量で産業廃棄物なども含めるともっと多くのごみを廃棄することになります。平戸市においても、ごみの減量化は大きな問題となっており、地球温暖化や海岸漂着ごみ、海洋プラスチック問題など環境問題とも直結しています。ごみを減らし自然豊かな平戸市にするため、私たちができる取り組みについて考えてみましょう。

### 人口は減少、ごみは増加

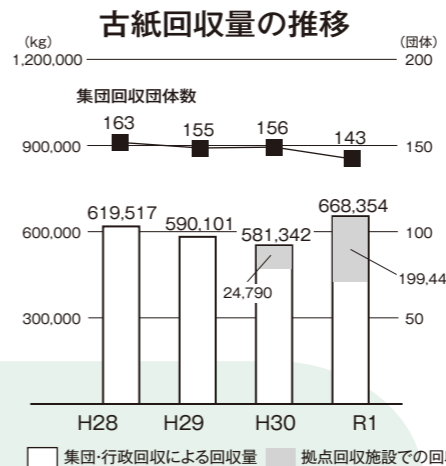
日本の人口は、2008年をピークに年々減少しており、平戸市においても、人口が減少しています。

しかし、市内のごみ排出量は横ばい状態が続いている一方で、1人1日当たりのごみ排出量は年々増加しています。

# 平戸市におけるごみ減量化と再資源化の取り組み

## ごみ減量・再資源化の支援制度

市の支援制度として各種団体が回収した紙類の量に対して交付する「再資源化推進交付金」や回収した資源物の保管場所や拠点回収施設の整備に要した経費の一部を補助する「資源物拠点回収施設支援事業」があります。



しかし、グラフでも分かるように、集団回収における活動団体数および回収量は、年々減少しています。これは少子高齢化に伴う活動団体の解散や構成員数の減少による1団体あ

たりの回収量の減少などが考えられます。一方で、平成30年度から設置した拠点回収施設の回収量は年々増加しており、市全体の古紙類回収量は増加傾向にあります。

## 今後の取り組み

市では、古紙類などの再資源化を推進するため、以下の項目に積極的に取り組んでいきます。

- ① 活動団体への支援
- ② 回収事業者への支援
- ③ 離島での古紙類回収方法の検討
- ④ 事業系ごみの適正な分別および再資源化の推進

まずは、燃えるごみとして捨てるのではなく、捨てる前に再資源化できないか考えてください。再資源化できるものについては、各地区・団体などの古紙回収などを利用し、地区に回収団体などが無い場合は、市内4カ所にある拠点回収施設をご活用ください。

## 古紙回収拠点施設設置事業者の声 Interview



大和紙料株式会社  
九州営業本部  
部長 伊藤 清 さん

リサイクルでごみ減量化・再資源化だけでなく地域の活性化や新規雇用にも貢献していきたい

これまで、平戸市には古紙回収拠点施設がなかったため、子供会や婦人会などで行われる団体回収に出せない地区や市民の皆さんの大切な資源が残念ながらごみ化していました。そこで、回収拠点施設を市内で展開できればごみの減量化につながり、リサイクルを通して地域の活性化や新規雇用が生まれ、市民の皆さんのお役に立てるのではないかと



▲地元高校の卒業生も雇用されています。

の思いで立ち上げました。

今は、新聞や雑誌などの紙媒体のものが電子化されるなど、ペーパーレス化の時代に入り、古紙回収量も減ってきています。幸い、平戸市では全国平均よりも高い水準で回収率を維持できており、新しい古紙回収のモデルケースとして全国に発信できるよう市民の皆さんのさらなるご協力が必要となりますのでよろしくをお願いします。

なお、拠点施設に持ち込まれる場合は、リサイクルできない木材や鉄なども混じっていることもありますので、再度確認をお願いします。

## まずは身近にできる2つのことから

### ごみ出し3原則を守りましょう

#### 指定ごみ袋の使用

指定ごみ袋を適切に使用しましょう。(ビン類は資源袋に入れず。水分はよく切る。袋の口をガムテープでふさがれないなど)

#### 決められた時間・場所に

必ず時間と場所を守り、地域ぐるみで地域の衛生環境、景観を守りましょう。

#### 分別・リサイクルの徹底

適正に分別し再資源化を図りましょう。また適正に分別されないと回収できません。

※分別の仕方については、各家庭に配布している「ごみ出し便利帳」を確認してください。

### ごみの4R運動を進めましょう

リフューズ  
**Refuse (断る)**

マイバックを持参してレジ袋を断るなど、ごみになる物は発生源から断ちましょう。

リデュース  
**Reduce (少なくする)**

ごみになる物が少なくなるよう行動しましょう。

リユース  
**Reuse (再使用する)**

フリーマーケットに出品するなど、使わなくなった物は他の活用方法を考えましょう。

リサイクル  
**Recycle (再生利用する)**

古紙や使用済みペットボトルなどの資源ごみは分別し、有効活用しましょう。

4つの取り組みを実践してごみの減量化・再資源化

## Interview 地域で活動する団体の声

### 地域活動を通じて、自然豊かなきれいなまちに

生月婦人会は、会員、準会員含めて約220人が活動しています。活動内容は、運動会や敬老会など地域活動への協力や会員の交流、研鑽を高めるための研修会などの開催、そして地区清掃、資源物回収作業など生月地区の環境美化活動を行っています。

今年は新型コロナウイルスの影響もあり、多くの行事が中止になり、地域貢献の場が減ってしまいとても残念ですが、落ち込むのではなく、資源物回収やプランターの設置に特に力を入れてきました。



生月婦人会  
会長 松本 喜美子 さん



資源物回収は毎月行っていますが、生月小学校の児童や社協、福祉施設の皆さん、そして町民の皆さんの協力もあり、多くの資源物が回収できとても感謝しています。これからも、会員の団結力を深めながら、平戸市のごみ減量化に貢献し、自然豊かな町を守り続けていきたいと思っています。